

『美学』投稿の手引き (2017.10)

0. はじめに

『美学』は 236 号 (第 61 巻 1 号) より判型の変更に伴い、活字の組み方及び図版の扱いを変更します。投稿に際して、活字サイズ、行組等に関しては、235 号以前の『美学』のバックナンバーではなく、必ず、236 号以降のバックナンバーを参照して下さい。

また、原則として論文投稿時にデジタルデータを提出していただきます。もちろん手書き原稿の投稿を妨げるものではありません。

1. 原稿の分量

1.1 本文・註・文献表・図版・表について

投稿論文の分量は、「投稿規定」に 400 字詰原稿用紙 35 枚から 45 枚までと規定され、そのなかに註・文献表・図版・表を含むとされています。問題となるのは、この図版や表の分量をどのように換算するかです。じつは、論文の分量は印刷時に 12 ページまでとすることになっています。ですから、この 12 ページから逆算したほうが、より適切に図版・表を含めて投稿原稿の分量を想定することができます。

『美学』の論文の 1 ページの分量は以下のとおりです。

1 ページ目：30 字×17 行×2 段 (題名と執筆者名で上下段ぶち抜きで 8 行分使用します)

2 ページ目以降の本文：30 字×25 行×2 段

2 ページ目以降の註・文献表など：33 文字×30 行×2 段

注意：

- 1) 本文と註・文献表などが同一ページに掲載される場合は、行数は按分します。
- 2) 本文中の見出し (章・節の題名など) には 3 行分を使用します。
- 3) 本文と註・文献表などの間は、本文の 1 行分空けます。
- 4) 図版・表も 12 ページに含みます。詳細は次項をご覧ください。くれぐれも文字数では計算なさらないでください。400 字詰原稿用紙で 45 枚 (18000 字) まで執筆できるわけではありません。実際には、余白が必要になります。あくまでも、1 行 30 字に設定して行数

で計算なさってください。

「美学本文文字数調整用簡易レイアウト」はあくまでも文字数の概算、レイアウトのモデルとしてお考えいただき、改めて字数の計算をお願いします。実際のレイアウトはDTP(DeskTop Publishing)担当者が専用のソフトを使用して行なうため、簡易レイアウトとは異なることを了承していただくとともに、文字数を超過されている場合には投稿時、初校時等に修正していただくことがあります。

1.2 欧文要旨について

欧文要旨は、200語までとなっています。欧文の場合、語数は「桁数×行数÷6＝語数」の公式で出します。たとえば、1行を半角で80桁に設定して入力した場合は、「80桁×行数÷6＝200語」となりますから、行数は15行となります。また、査読の際に必要となりますので、欧文要旨の日本語訳も提出してください。

2. 図版・表について

前項にあげましたように、図版・表も12ページに含みます。図版・表を掲載する分、本文・註・文献表などの分量が少なくなりますので、ご注意ください。「本文文字数調整用簡易レイアウト」を利用する場合、分量にご注意ください。

なお、図版・表を利用する際は、図版・表を組み込んだレイアウトをメールもしくは別途郵送で編集委員会までお送りください。

2.1 図版・表の位置について

図版・表は、論文の最後の一括して掲載するか、あるいは本文中に挿入するか、どちらかを選択して下さい（レイアウト指示については2.3参照）。

2.2 図版・表の写真・原版について

図版・表を掲載する場合には、そのまま印刷できる写真、原版あるいはデータ（一般的な拡張子によるもの）をご用意ください。写真の場合は、キャビネ版の白黒写真であれば鮮明に印刷されます。サービス版のカラー写真でも印刷は可能ですが、鮮明さは期待できません。グラフ・表などの場合は、原則として、パーソナル・コンピュータを利用し、ご自分で原版を作成してください。

なお、図版・表の画像ファイルを電子媒体（CD-R など）、メール添付等の形で御提出いただいても構いませんが、その場合には、画質に関しては著者が最終責任を負うものとし、ます。画像ファイルは原則として JPEG（.jpg）で御提出下さい。それ以外のファイル形式を使用する場合は、編集委員会にお問い合わせください。解像度は、300dpi、1000～1500 ピクセル程度を目安としてください。解像度を上げるとファイルのサイズが大きくなりすぎてしまう恐れがあります。初校の段階で図版の印刷具合の確認が出来ますが、その段階でやはり図版を写真で出し直したいという要望には応じませんので、事前に、スキャナの解像度や、図版の縮小によるつぶれや拡大によるあれ等をよく御考慮下さい。

2.3 レイアウトの指示について（送付される場合）

図版のレイアウトは論文全体の字数（頁数）を左右しますので、図版や表を使用する際は図版等を配置したレイアウトをデータもしくは紙媒体で送付してください。

詳細なレイアウトの指示等は、査読結果の後に各部会幹事よりお尋ねいたします。その際、プリントアウトした論文に朱で指示を依頼するなど、個別に対応させていただきます。ただし、段落内での図版の位置については、版組に関して、欧文部分のプロポーショナルスペーシング等の不確定部分が多いため編集担当者が出版社の DTP 担当者と協議して決定するものとなります。また、図版のサイズについては、レイアウトの関係で指定と若干違ったものなることがあります。

2.4 キャプション

図版・表を本文中に挿入する場合、論文の最後に一括して掲載する場合のいずれにおきましても、図版・表の説明（いわゆるキャプション）は、論文とは別ファイルもしくは別紙にまとめて記載してください。

2.5 図版・表の番号

図版・表の写真や原版の裏などには図版・表番号を記載し、どの図版・表がどこにレイアウトされるのかが明確に判るようにしてください。また、図版・表の写真や原版の現物を送られる際には、裏に天地（上下）が分かるように矢印等の記号を入れておいてください。

2.6 図版・表の著作権について

図版・表に著作権がある場合は、必ずご自分で使用許諾をおとりください。著作権問題が生じた場合には著者が責任を負うこととします。公開方針の変更に伴い、雑誌『美学』236

号以降については、論文に使用された図版等をマスク加工なしでウェブ上に公開することとなりました。つきましては論文のウェブ上での公開に関連して、「著作権に関する確約書」をご記入の上、本確約書を美学会編集事務局までご提出いただきたくことになります。

3. 電子メール入稿のお願い

紙媒体のみでの提出を妨げるものではありませんが、可能な限り電子メール入稿にご協力ください。本文は、Word形式(.doc)あるいはRich Text File(.rtf)のいずれかで提出ください。詳細は、別項「デジタルデータ入稿の手引き」をご覧ください。

4. 連絡票

投稿の際には、連絡票として、下記の事項を明記したものを論文本体とは別に添付して送付してください。(これは編集実務のために必要なもので、編集幹事が使用するものです。査読のためのものではありません。書式は特に定めておりませんので、下記の情報が明記されていれば結構です。)

- 1) 氏名 (欧文氏名もお願いいたします)
- 2) 所属 (〇〇大学文学部教授、〇〇美術館学芸部学芸員、〇〇大学大学院文学研究科大学院生などのように、詳細にお書きください)
- 3) 論文名 (欧文題名もお願いいたします)
- 4) 連絡先
 - ・郵便物の送付先 (郵便番号を含む自宅住所あるいは勤務先住所)
 - ・電話による連絡先 (自宅あるいは／および勤務先。受信可能な時間帯をお書き添えください。)
 - ・電子メール (メール確認の頻度、あるいは何曜日には確実に確認するかなどありましたらお書き添えください。)

5. 提出物の扱い

学会通信費の節約のため、図版、CD-R等の電子媒体は、原則として返却いたしません。あらかじめご了承ください。ただし、図版については、貴重なものに関しては、希望される方には返却いたします。その場合、連絡先を書いた紙に「図版何番は返却希望」と明記し、

当該の図版の裏にも返却希望と書いておいて下さい。

6. 書評

投稿規定では 400 字詰め原稿用紙 10 枚～20 枚、縦書きとなっていますが、ページ割り付けでは、1 ページあたり、21 字、28 行、3 段で 3 ページ分掲載可能です。ただし 1 ページ目の 1 段目には著者、書名、出版社等を記すために 8 行必要ですので、その分の字数減となります。

7. 新刊・論文紹介

投稿規定では 400 字詰め原稿用紙 3.5 枚または 7 枚横書きとなっていますが、ページ割り付けでは、1 ページ、20 字、42 行、二列で収まるようにしてください。

8. 全国大会発表要旨、東西部会における例会・研究発表会要旨 1200 字とする。

以上、よろしくお願いいたします。

1999 年 3 月 千速敏男作成

1999 年 6 月／2000 年 2 月／2001 年 2 月 木村建哉改訂

2002 年 8 月 喜屋武盛也改訂

2008 年 12 月 蘆田裕史・輪島裕介改訂

2009 年 10 月 北村清彦改訂

2013 年 10 月 津上英輔改訂

2017 年 10 月 樋笠勝士改訂

以上の記載は、掲示後に変更される場合もあります。詳細の確認につきましては、『美学』編集事務局までお問い合わせください。